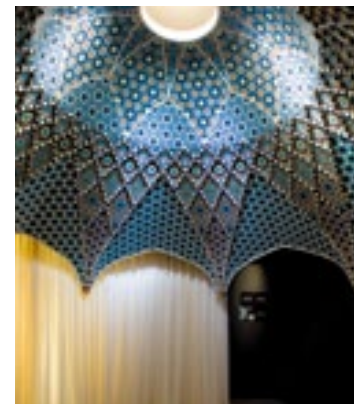


[スタッフが紹介します。]
リニューアル、とっておきの話

1階は「装飾する魂」、2階は「時空を超えるタイルたち」が展示コンセプト。
スタッフが知っているリニューアルの話と「お気に入りのタイル」をお教えます！



旅行などで、イスラーム地域のモスクや宮殿のドームを見上げた時のアラベスク模様の壮大さに、小宇宙を感じた方もいらっしゃるかもしれません。世界のタイル博物館リニューアル計画が始まった時、「この小宇宙を再現してタイルの持つ表現力を伝えたい」と考えました。

タイルの表現力を伝えたい



私の好きなタイル

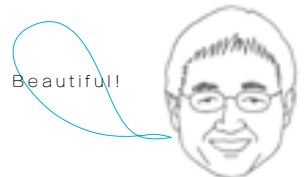
辻 孝二郎

最古のタイル
BC2650年 エジプト



世界最古のタイルが8ピース。山本コレクションを代表するタイルのひとつであろう。最初のもので、初めてのこと

が大好きな私には、見たことがないものが完成したときの感動の大きさと心のふるえる様が手に取るようにわかる。このタイルの創造者は、4650年後、このタイルが東洋の一地方・常滑の博物館で展示され、多くの人々に賞賛されることを想像できなかっただろう。それにしても美しく、つくった人たちの品性や人格、ものづくり人特有のやわらかな手まで見えてくる。英国・大英博物館では6ピースしか展示していないのを見て、ほくそえんだ思い出がある。



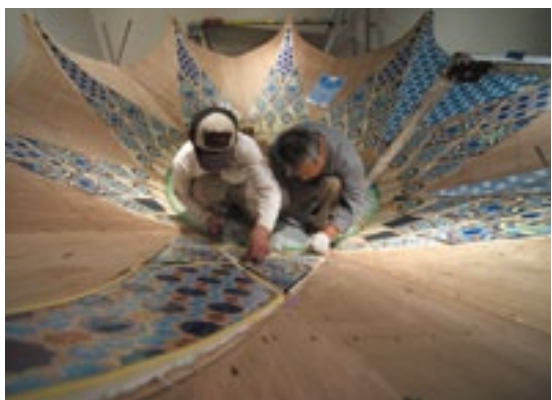
複雑な曲線からなるドームを図面化するために数十種類の案を描くのですが、どうもしっくりいきません。思い切って深見先生のところを訪ねたのは、オープンまで半年を切った時期でした。持参した図面を見た深見先生の一言、「イスラームのドームを上から投影すると、全てが直線から構成されています」が、重要な道標になりました。そして、参考にいただいた図面のシンプルなのに驚いた

深見先生の一言が道標に

最初に手にした案内書は、「イスラーム建築の見かた 深見奈緒子著」。「ドームの内側は人間を包み込む空間としての適正のために高さ」と広さのつりあい「空間の流るを反映した」という文章から、3mしかない天井高からできるドームの直径の最大を3mと決め、八角形からなるドーム構造などを読み解いていきました。

イスラーム幾何学の偉大さに感心する

何枚もの写真を繰返し見ること得た道標は、タイルパターンが「単純な多角形で構成されているにすぎない」ということでした。三角形、四角形、五角形、六角形、八角形といった多角形を組み合わせたことでデザインは構成されている。さらに、同じ線画に違った色合いのタイルを用いることで無限のパターンを描けることに気が



イラン・シラーズの叙情詩人サーディーの廟(1952年建設)にあるドームをモデルに、約2/3の縮尺で再現。幾何学的パターンに基いた12形状・7色のタイルを制作し、デザインした。

付いた時は、中世に世界の幾何学をリードしたイスラーム幾何学の偉大さに感心した瞬間でした。



イスラームのドームはこうしてつくった！



GOTO Yasuo
後藤 泰男



5万5千本のベグをつくる

世界最古の絵文字が発見された、古代メソポタミア・ウルクの神域遺跡にあった「クレイベグ(円錐形の粘土釘)で装飾された壁を復元しました。



円錐形には理由があった！

ベグ(釘)という名前から、初めは釘のように土壁に打ち込んだものと考えていました。しかし打ち込んでみると、一本ごとに周りのベグが飛び出してきて、連続で



クレイベグをつくる社員ボランティア



行こうことができず。そこで、一列ずつ積み上げて施工することになりました。ベグはなぜ円錐形なのか。復

元を通して、その理由がわかりました。円錐形を積み上げると奥に空間ができます。これは、接着剤もセメントもない時代、土を使ってやきものを積み上げるために必要な空間だったのです。また丸い柱を装飾するのに、円錐形は実に有効な形だったので。

復元で見たベグの秘密……

TANAZAKI MITSUO
浜崎 光夫



私の好きなタイル

磯村 司

スカラベ
(トルコ石ブルーの糞転がし) エジプト



ミララの心臓を守るためのお守り(護符)だそうです。スカラベは、古代エジプトで太陽神と同一視された聖なる甲虫。直立状態で押して運ぶ様が、太陽の運行を象徴すると考えられたためです。また丸めた糞に卵を産み付け、それを破って世の中に姿を現すことから、「再生」「復活」の象徴としても崇拜されています。鶴岡真弓先生が、「磯村さんは、常滑のスカラベの化身ですね」と言ってくれました。そういえば私も、太陽のような朱泥の「光るどろだんご」をつくっています。

尾之内明美

イズニックタイル
15世紀 トルコ



15世紀頃、明代の中国から持ち込まれた磁器の影響を受け、独自に発展したイズニックタイル。「イズニック」という

名は、アナトリア半島西部に位置する、オスマン朝時代のトルコの窯業都市に由来します。最大の特徴は「赤」にあります。「トマト赤」「アルメニア赤」と称されるその「赤」は、鉄分を多く含む珪石の粉をタイル面に盛り、上から透明な釉をかけ焼成したもので、白地に映え、またコバルトブルーとのコントラストも絶妙です。

後藤泰男

ずんしょうあん
寸松庵伝来花壇瓦
17世紀 日本



タイルは壁面や床面を構成する素材で、通常は表面から見られるため、1面だけに釉薬などの装飾が施されています。これは花壇の土留めとして利用された瓦で、いろいろな角度から見られるために側面と上面そして裏面上部に釉が施されています。上面では凹凸文様に従う釉薬の濃淡が美しく、側面と裏面は窯の中で釉薬が流れ動き「窯変」と呼ばれる色合いの変化をもつ、何ともいえない風合いを醸し出しています。まさに装飾と機能が一致したタイル(瓦)です。



ヴィクトリアンタイル(2階展示)

に違いありません。現代の「住まい」に対する考え方やタイルによる装飾の原型が、まさに完成した時代といえるでしょう。

代」などと評される世相を反映し、タイルのデザインもネオゴシック、自然主義、アールヌーボー、東洋趣味...と、実に多岐にわたります。また乾式製法の実用化や転写紙によるプリントの考案などの技術革新もあり、タイルはかつてないほど多様な発展を遂げました。当時、産業革命を経て台頭した中産階級の人々は、豊かさを求め競って郊外に「住宅」を建てはじめます。それらの「住宅」に求め

られた明るさや個性を表現する手段として、アールヌーボーの流れるような曲線を色鉛筆で美しく彩ったタイルなどが、積極的に取り入れられたのです。個人の嗜好を自在に反映できるタイルという素材に、人々は自己表現の可能性を見出していた



1階展示には、ヴィクトリア時代からタイルを製造しているイギリスのジャックフィールド社にオーダーした手づくりタイルを使用した。

自己表現の手段だった
ヴィクトリアンタイル

ONOUCHI Akemi
尾之内明美



19世紀半ばから20世紀初頭、ヴィクトリア女王の治世を中心にイギリスでつくられた装飾的なタイル「ヴィクトリアンタイル」。「スタイルの混乱期」、「折衷様式の時

代用したと考えられます。そこで今回は、トルコ石を模倣するための手法を考え、当時の製造方法を推定。この世界最古のタイルを再現しました。

紀元前27世紀、エジプト古王国第三王朝のジェセル王が建造した階段ピラミッドの地下。入口も出口もない閉ざされた暗黒の空間に、世界最古のタイルが眠っていました。寶石のように輝くブルーのタイルです。



された貴石の天然トルコ石を加えて装飾したかったのですが、その使用量は3万6千枚にのぼり、それだけの量のトルコ石が確保できず、「エジプトファイアンス」と呼ばれる青色のやきもので代用したと考えられます。



地下に眠っていた宝石

3

TAKEDA Haru
竹多 格



約1センチ角の小粒の施釉モザイクタイルを使って、春の桜、夏のヒマワリ、秋のモミジ、冬の雪を描き、日本の四季を表現しました。モザイクタイルは昭和22(1947)年発売のロングセラー商品です。当時は「アートモザイク」と呼ばれ、「豊富な色揃えをいかしたモザイク

クタイルによる絵画」といった位置づけで、岡本太郎や東郷青児など芸術家によるモザイク画が制作されました。現在ではコンピューターによる画像処理で原画のモザイク化は容易になりましたが、タイルを並べるのは今も手作業です。

モザイクタイルで絵を描く

TAKEDA Haru
竹多 格

中世までのヨーロッパは、建築の内部装飾に大理石モザイクを多用していましたが、イスラームのタイル装飾と窯業技術が伝わり、「タイル文化」が花開きます。中国の染付磁器にあこがれたオランダでは、陶土を用いて磁器の透明で白い肌合いに近づけようと試行錯誤を繰り返していました。そして、素焼の土に錫釉の化粧掛けをしてからコバルトやマンガンなどで絵付けを施し、不透明の釉薬を薄くかけて焼成する技法を確立。中国磁器の文様や絵柄を写した「デルフト焼」を生産して人気を博し、やがてヨーロッパ各地に伝播して制作されます。17世紀から18世紀の大航海時代を迎えて、貿易で富を得たオランダの裕福な人々はタイルを生活

の中に大量に取り込み、居間の暖炉や食堂の壁面を飾ります。後に一般市民にまで広がり、室内を飾りました。

フェルメールとオランダタイル



17世紀のオランダを代表する画家ヨハネス・フェルメールはデルフトの生まれでデルフトの町や住居人々などの風俗画で有名だ。彼の作品には、タイルを使用した家屋も描かれている。その「牛乳を注ぐ女」右下の何回か描き直しの跡があるとされた場所に、5枚のオランダタイルが幅木として使用されている様子が描かれている。運河の国オランダでは、地下水の浸透で床と壁の境界に湿気がたまることから、湿気を防ぐ機能と装飾を兼ね備えたタイルが幅木として使用されていたのだ。



住まいに登場した
オランダのタイル

TAOJIBANA Yoshino
立花 嘉乃



オランダのタイル(2階展示)

私の好きなタイル

竹多 格

クエンカタイル
(幾何文クエンカタイル)
16世紀 スペイン



本来は壁用だったのが、訳あって床に張られたようです。表面の凸部がすっかり擦り減って、地肌の色が出ているのがわかります。擦り減ってやわらかい落ち着いたトーンの色合いに変化し、長い年月の経過を感じさせるところが好きなタイルです。ヴィクトリアンタイルのような華やかさはありませんが、イスラーム時代の重厚な幾何学模様や上下に重なる紐模様を精緻に刻まれていて、ねらい通り、カットワークモザイクさながらのリアル感が伝わってきます。

立花嘉乃

藍彩タイル/子どもの遊び
17世紀~ オランダ



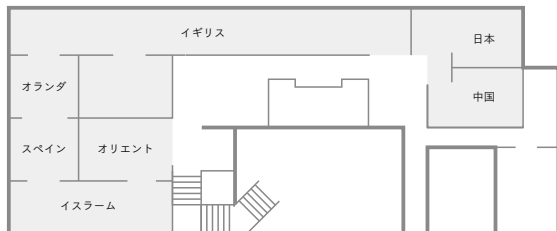
縄跳び、竹馬、ブランコ…。子どもが屋外で遊ぶ姿が、白地のタイル中央にコバルトで生き生きと描かれています。他にも、聖書の一場面や動物、帆船、天使、兵士や市民の姿など、身近なモチーフが描かれており、当時の人々の生活の様子、ファッションを垣間見ることができます。また、中央の絵柄を引き立たせるように四隅に配された模様「コーナーパターン」もさまざまなデザインがあり、シリーズごとに見比べるのも一興です。

浜崎光夫

人物文単色レリーフタイル
19-20世紀 イギリス



レリーフ(凹凸)で表現した素地に、鉛を含む緑色の釉薬をかけて焼成したものの、焼成中に色釉が凸部から凹部へ流れ、その結果、凸部は透けて淡く見え、逆に凹部は色釉が溜まりこんで濃く見えるようになっています。平板であるタイルに奥行きが表現され、単色であるにもかかわらず立体的に見えるのが特徴です。この貴婦人の魅力的な微笑みを見つめると、自然と笑顔になります。館内を案内している際に、この単色レリーフタイルの魅力を来館者に押し売ったことも1度や2度ではありません。



2F



中央アジア(ウズベキスタン)のタイル



イギリスの単色レリーフタイル

世界のタイル

人類が建物に色彩と永遠の美しさを与えるために考え出した材料は、朽ちることのないやきものでつくられた色彩豊かなタイルでした。



時代が生んだ装飾
世界のタイル博物館

山本コレクションと世界のタイル博物館

INAXのタイルを扱う会社を運営していた山本正之さん(1920-2000)。タイルに魅せられ、「タイルが使われた風土を自分の肌で感じたい」という旅は、実に世界50カ国以上にわたる。タイルのルーツを探って、中国、エジプト、インド、メソポタミアの4大文明の地を歩き、シルクロードを幾度も往復した。その間、収集したタイルは約6000点。足で集めた貴重なコレクションだ。

1991年、山本さんはそれらを散逸することなく後世に伝えていきたいと、常滑市に寄贈。1997年、INAXはそれらの展示公開・保存・研究をするために「世界のタイル博物館」を開館した。山本さんは1996年に「タイルの施工と仕上げの改良に努めた功績」と「タイルの文化的価値の探求と高揚への寄与」で日本建築学会文化賞を受賞している。山本さんの愛してやまなかったタイル。その魅力を多くの人に紹介したい。

「時空を超える
タイルたち」
— 2階展示



磯村 司
ISOMURA Tsukasa

2階には、「時空を超えるタイルたち」と題し、装飾タイル約800点のオリジナル品を展示、地域別・時代別にわかりやすい展示に変えました。

イスラームの部屋には10世紀、15世紀の中央アジア(ウズベキスタン)のタイルが加わりました。イギリスの部屋には、19、20世紀の単色レリーフ(エマイユ・オンブレン手法)が充実しました。裏足(タイルの裏側)の展示コーナーでは、一部、表面も見えようように工夫し、ミントン社やウェッジウッド社がどんなタイルをつくっていたか、わかるようにしました。

日本のコーナーでは、和製ヴィクトリアンタイルの展示数を増やしています。明治時代の洋館建設でヴィクトリアンタイルが輸入され、タイルの需要を見越した国内のタイルメーカー「淡陶」と「不二見」は、新しい製法をイギリスから学び、国産化しました。このタイルは台湾、インドネシア、インド、イギリスにも輸出されていました。